

学校名	熊谷市立大幡中学校
所在地	熊谷市原島834番地1
電話	048-521-2660

1 本校の概要

本校は、昭和58年に設立、開校され、平成24年に開校30周年を迎えた。熊谷市のほぼ中心に位置し、国号407号線沿いに学校がある。田園地帯と住宅街そして商業地域の中にある学校である。

生徒数は311名、全12学級（特別支援学級3学級）で、市内では中規模の学校である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組

(2) 実践の概要

ア 朝読書 ～図書委員と広報委員の活躍～

朝会などの集会がない限り、毎日10分間の朝読書を行っている。ここで活躍するのが図書委員と広報委員である。図書委員は、朝読書開始3分前から本の用意や着席を促す呼びかけを行う。そのため、生徒全員が朝読書のチャイムと同時に本を開くことができる。さらに、本校では朝読書の時にオルゴール曲が流れている。これを流すのが、放送担当である広報委員の仕事である。毎日同じ音楽が流れるため、生徒は読書に集中し、落ち着いた雰囲気の中で朝の学活や1時間目の授業を迎えることができる。

イ 学校図書館補助員との連携

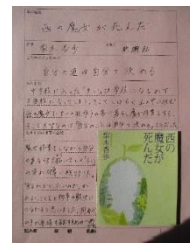
本校には、学校図書館補助員が週の半分以上勤務している。普段から生徒とのコミュニケーションをとっているため、昼休みの貸出し時にはおススメの本を生徒に応じて紹介するなど生徒との関わりも深い。ウで紹介するブックトークに向けて、司書教諭と学校図書館補助員で相談しながら生徒の実態に応じた読ませたい本を選定した。

ウ 図書委員によるブックトーク

生徒朝会では順番で各委員会の発表がある。図書委員会では、生徒によるブックトークを行った。9月に発表するため、イで司書教諭と学



校図書館補助員とで選定した図書（学年別に人数分＋数冊）を夏休み前の委員会で生徒がどの本を読むかを決めた。委員全員が本を1冊持ち帰り、紹介用紙に記入（右図）し、夏休み



明けの委員会で提出した。生徒朝会では、パワーポイントの投影をして、視覚にも訴えた。後方の生徒



にも見やすいものとなるよう本の表紙の写真の他は、題名と図書委員が読み取ったメッセージのみを載せた。（左図）

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 落ち着いた雰囲気の中での朝読書の取組により、1日の良いスタートを切るきっかけとなっている。

1日のうちの唯一の読書時間となる生徒が多いが、必ず本を手にする貴重な10分間となっている。

イ 図書委員の紹介した本を求めて図書室を利用する生徒が増えた。「〇〇さんが紹介した□□（本の題名）はどこにありますか。」などの質問が、昼休みの貸出し時によく聞こえる。今まで興味を持たなかったジャンルの本に触れるきっかけ作りにもなっている。

(2) 課題

2(2)ウの「ブックトーク」による反響から読書習慣には生徒同士の影響が大きいことを今まで以上に感じた。

そこで多くの生徒が本を読むには読書に親しむ生徒の力を活用する必要があると考えた。

ア 生徒朝会の発表は限られているが、紹介用紙の掲示頻度を増やす。（現在は後期図書委員による紹介用紙を作成している。）

イ 図書委員以外の生徒が紹介文を書く。図書室に紹介カードを置き、利用頻度の高い生徒に紹介文を書かせる。この取組により図書室の本を借りたことのない生徒にも本を手取る機会を増やす。

(3) おわりに

今後も生徒の実態を把握しながら図書の選定や配置を工夫していきたい。本は人生を豊かにすることを多くの生徒が感じられるよう力を注いでいきたい。